

香港、光り輝く季節

写真家 永田 幸子



いつも心トキメク★香港のクリスマスナイトビュー

1年でもっとも香港が光り輝く12月。20年ほど香港に通い続けていますが、12月に行くことが多いのは、1年で最も華やかでエキサイティングな香港に出会えるからかもしれません。街ではコートやジャケットを脱ぎ、いつもより足早に行き交う人びと。街の喧騒からクリスマスソングとセールと呼び声が聞こえてきます。クリスマスデコレーションが、モールやホテル、ブランドショップなどで競い合うように個性豊かにデコレーションされ楽しめます。その豪華さとアイデアには溜息がでしてしまうほど。15年ほど前から撮影を続けているトラム、クリスマス広告でラッピングされた2階席から、ドラマティックで多彩な香港のナイトビューを満喫。今年からは香港文化センター前では新しい夜景のエンターテインメントショー「香港パルス3Dライトショー」も加わり、さら

にゴージャス度がアップし華やかさを増します。

クリスマスの夜景撮影の時は、手ぶれ防止のため三脚担いで歩き回ります。撮影でお腹が空いたら、店先で調理する匂いに誘われて食べるのが香港名物の煲仔飯（ポウチャイファン）。アツアツの美味しい香港式土鍋ごはんには生油、老抽の醤油ベースのタレをかけてかき混ぜいただきます。最近は1年中味わえるお店もありますが、寒い時期に食べる必食メニュー。お腹いっぱいになったら夜景が綺麗なレストラン&バーで香港のナイトビューを楽しみたい。

香港ではハイもロウも両方あって刺激的です。すべてを体験できるワンダーランドのような街。食べる・買う・見るとあれもこれもと欲張って満喫したい。いつものお店や話題のお店、短い滞在でも十分に楽しまなくてはとグルメ天国の香港を食べ尽くします。

香港返還17年目の2014年は、華やかで楽しい話題ばかりではありませんでした。この年は歴史に刻まれるであろう、民主化を要求する大規模な学生デモが広範囲でありました。香港人が、香港人であるが為のアイデンティティを、そしてその炎を決して消してはならないことを、学生や市民たちは身をもって示しました。

香港がいつまでも光り輝く香港であり続けることを……そしてくる年、2015年が未来を明るく照らし、香港市民や若者たちが希望のもてる香港であり続けることを願っています。

永田幸子/写真家。著書に『香港トラムでぶらり女子旅』（ダイヤモンド・ビッグ社）、『香港路面電車の旅』（春陽堂書店）など

2014年12月 発行（禁断断転載）

目次

香港の夜景	1
革命の歌が聴こえる	2
「第15回香港フォーラム」&「全国協会交流会」開催報告	4
香港の最新プライダルフォト事情	6
連合会・各協会便り	
東京：【女子プロジェクト】パウヒニア会	
第9弾～12弾イベントレポート	7
関西：香港・中国ビジネスセミナー開催	8
中京：歴史と文化の館「揚輝荘」ご紹介	9
九州：講演会・会員交流会開催	10
北海道：札幌市による香港への外食産業の展開と連携強化の推進	11

宮 城：女性部会が二つの行事を開催/芋煮会を開催/香港FOOD EXPO 2014に宮城県ブースを出展	12
沖 縄：沖縄県・香港貿易発展局 MOU締結	13
広 島：初めての海外取引セミナー&相談会/第6回日本香港協会全国事務局長会議	14
新 潟：新潟県酒造組合が今年も新潟清酒試飲商談会を開催	15
キャセイパシフィック航空からのご案内	16

革命の歌が聴こえる —民主化問題をめぐる香港音楽の世界—

立教大学准教授 倉田 徹

本協会の麻生雅一郎広報委員長から、香港政治をテーマに『飛龍』の原稿をご依頼頂いたのは8月22日であった。メ切まで2ヶ月の時間を頂戴したが、その間の香港政治の展開について、一体誰が予想し得たであろうか。「オキュパイ・セントラル」は「雨傘革命」になり、世界中のメディアのトップを飾った。本稿メ切時点でも短期間での収束はとて見通せない。

日本の大新聞が連日この件に大きく紙面を割くいま、民主化問題の政治分析をテーマに本稿を綴っても、その価値は限られよう。むしろここは、香港との深い付き合いをお持ちの国会報読者の皆様のために、違う角度からお話したい。

今回の抗議活動には、「中国化」に抵抗する香港アイデンティティの爆発という要因が底流に流れている。このため、占拠をネット・報道・現地で観察して、強く感じるのは随所に漂う香港文化の香りである。金鐘の学生たちは高尚な民主のスローガンを壁中に貼り出し、自習室を設けて勉強している。スマートな香港のエリート文化だ。一方、旺角の占領区は、北を閩帝廟が、南をキリスト教会が「守る」なかで、風水師やヤクザも登場し、庶民のパワーが炸裂している。これもまた香港のつきぬ魅力の一側面だ。

そんな香港文化の一つとして、広東語の流行歌が挙げられる。今回の民主化運動でも、場面に合わせて様々な歌が登場した。その歌詞をたどりながら、民主化運動の文化的側面を考えたい。

◆「問誰未發聲」：オキュパイ・セントラルのテーマソング

「問誰未發聲（まだ声をあげていないのは誰か）」は、5月に「オキュパイ・セントラル」のフェイスブックページに登場した曲で、ミュージカル「レ・ミゼラブル」の有名な一曲「民衆の歌」に広東語の歌詞を振ったものである。英語の原曲はすでに2013年の7月1日デモで使われてもいた。

歌詞は、原曲がそうであるように、人々を革命へと鼓舞する内容である。「試問誰還未發聲、都捨我其誰衛我城、天生有權還有心可作主、誰要認命噤聲、試問誰能未覺醒、聽真那自由在奏鳴、激起再難違背的那份良知和應（まだ声をあげていないのは誰か、私以外に誰がこの町を守るのか、意志があれば主人となれる権利を生来持ちながら、誰が黙って運命を受け入れるのか、誰が目覚めずにいられようか、自由が鳴り響くのを聴けば、抗しがたい良心がそれに共鳴する）」「問我心再用我手去為選我命途力拼、人既是人有責任有自由決定遠景（自分の心と手を使って運命を選ぶために力闘せねばならない、人が人である限り将来を決める責任と自由があるのだ）」という、硬派で高尚な歌詞や、西洋の名曲のカバーというやり方は、いかにも「オキュパイ・セントラル」発起人らのインテリ層の好みであろう。

この曲は当初、複数の香港の歌手に歌うよう依頼したものの、一様に断られたため、結局無名の少女の歌にビデオをつけてネットで発表されたという。大陸市場を重視するいまの香港の芸能界の風潮を象徴する出来事である。

◆「雞蛋與羔羊」：若者に響いた叫び

人気女性歌手・謝安琪の「雞蛋與羔羊（卵と子羊）」は、より香港庶民文化の色彩を帯びる。謝安琪は今年34歳、インディーズでありながら紅磡の香港コロシウムでコンサートを開いた初めての歌手である。この曲は、今年6月30日、即ち7月1日デモの前日に発表され、特に政治色の強い歌詞になっている。

「惶忪醉過後還信生活又如常、怎知卻中伏被騙、成為奴隸大劫在頭上、不堪設想（ぼんやりと酔った後もいつもの暮らしと信じていた、まさか罠にはまり騙され、奴隷になって災いが降りかかるとは、この先はどうなる）」という歌詞には、「一国二制度」「五十年不變」を信じてきた中で、想像もしなかった勢いの「中国化」を既成事実として受け入れさせられている香港市民の心理が反映されているようである。

面白いのはサビの部分の以下の歌詞である。「A餐雞蛋撞石牆、不怕壯烈下場、決不退讓、B餐俯首做白羊、一世困在牧場、餐券這兩張、怎麼取向（A定食：卵が壁にぶつかる、壮絶な最期を恐れず、決して譲らない、B定食：頭を垂れて白い羊になる、一生牧場に閉じ込められる、食券はこの二枚、どうする）」、「A餐」「B餐」は、香港のおなじみ「茶餐厅」のセットメニューであり、「雞蛋撞石牆」のような食材と調理法(?)を組み合わせた5文字程度の説明がつくのもいかにもそれらしい。弱者である香港人が北京の壁に果敢に挑むのか、おとなしく北京の許す範囲での子羊をやるのかという意味を連想させる。厳しい二者択一を迫りつつ、同時に香港の庶民らしい単語を並べている点が、「問誰未發聲」の理論先行的な雰囲気とは異なる。「卵と壁」という村上春樹の言葉を引いている点も、西洋趣味の「問誰未發聲」よりも、いまの香港の学生の好みに合いそうだ。

ちなみに、この曲の二番の歌詞は「一顆雞蛋撞石牆、不免碎裂斷腸、怎麼較量、一堆雞蛋望石牆、可以變做力場、繼續擴張（一つの卵が壁にぶつかれば、バラバラになるだけで太刀打ちできないが、一群の卵たちが壁に向き合えば、磁場となって拡大を続ける）」と続く。団結する卵は壁にも打ち勝てるであろうか。

この曲は発表されるや、ネット上で若者を中心に大反響を呼んだが、ラジオ局は政治的配慮からか、放送を控えたという。

◆「北京北角」：友好を促す「安定維持ソング」

一方、同じ時期に発表された人気歌手・李克勤の「北京北角」は、180度趣向の異なる一曲である。「北京北角」は、広東語で「不經不覺（知らずしらず）」とほぼ同じ発音になる。北京と香港の北角という二つの地名を並べ、両地の関係を比喻する。

「北京北角真心相愛、好想見面（北京と北角は心から愛し合い、とても会いたい）」、「北京北角金紫荊對開許個願、以愛熱溶那界限線、就怕最尾發展南北竟不過電、二人同居先

變大戰（北京と北角は金紫荊の前で誓いを立て、愛で境界線を溶かしたが、しまいには南北の間が通電せず、同居したが大きな争いになった）」との内容は、金紫荊広場前のコンベンションセンターでの返還式典で愛国心から一つになった北京と香港が、今や対立し合う関係になったことを嘆く。

しかし、「北京北角走出死角、剛剛發現這兩座城看似甚遠、但你再退兩步宏觀畫面乍現、地球儀中不算極遠（北京と北角は死角から出て、二つの町がとても遠いと感じたが、二歩退いてみれば大きな絵が見える、地球儀の中では遠くはない）」、「北歐很遠北非太亂、原來北京親切點、北京北角還是有緣、如何捨得斷斷斷（北歐は遠いし、北アフリカは乱れているし、実は北京が身近だ、北京と北角にはやっぱり縁がある、どうして惜しみなく断ち切れようか）」との歌詞が続き、外国よりもずっと身近な中国大陸との関係の重要性を説く。

外国を貶める言い方や、「由圍觀者撥著扇（傍観者が煽っている）」という表現は、いかにも民主化問題を「外国勢力の陰謀」とする北京の立場に寄り添った表現である。中国大陸を主たる市場とする香港の歌手にとっては極めて安全な歌詞であるが、香港の若者からはこの曲はネット上で、政権の「維穩歌（安定維持ソング）」、つまり政府寄りのプロパガンダと激しく非難された。

◆「撐起雨傘」：雨傘革命のテーマ

9月28日に「オキュパイ・セントラル」が始まると、催涙弾に傘を差して耐える市民の姿から、この運動は「雨傘革命」の名を与えられ、傘は運動の象徴となった。デモを支持する数少ない芸能人たちが、運動のために作った曲が「撐起雨傘（雨傘を支えて）」である。歌詞は香港のナンバーワン作詞家である林夕により書かれ、何韻詩・黃耀明らの歌手によって、10月4日夜の金鐘のデモ会場でも合唱された。

「靜坐人海你我非不怕、會畏懼這樣下去怎辦、但是人生到了這一晚、更怕未表白內心呼喊（人の海の中に静かに座るあなたや私に恐れがないわけではない、このまま続けたらどうなるのかと、しかしこの夜に至り、心の叫びを表さないことはもっと恐ろしい）」と、デモに参加した学生・市民の心を代弁する。「一起舉傘一起的撐、一起儘管不安卻不孤單、對嗎、一起舉傘舉起手撐、一起為應得的放膽爭取、怕嗎（ともに傘を挙げともに支え合おう、一緒なら不安でも寂しくない、そうだろ？ ともに傘を挙げ手を挙げて支え合おう、一緒に得るべきものを大胆に勝ち取ろう、怖いかい?）」、催涙弾や、それ以上の暴力の懸念の中で、団結して戦おうとのストレートな訴えである。

この歌に関係した歌手たちは、民主派からは「良心ある芸能人」などと称され、大いに歓迎されたが、大陸での今後のビジネスは失うことになるかもしれない。



金鐘の集会以「撐起雨傘」を歌う黃耀明らの歌手たち

◆「海闊天空」：誰もが歌える名曲

しかし、今回の占拠をめぐってこれほど様々な歌が出現したにもかかわらず、おそらく占拠の現場で学生たちが最もよく歌っていたのは、「問誰未發聲」でも、「雞蛋與羔羊」でも、「撐起雨傘」でもなく、20年以上前の香港のヒット曲である、Beyondの「海闊天空（どこまでも続く海と大空）」であろう。その歌詞は当然、今回の運動とは無関係であるが、デモ参加者の心情に非常にマッチした。

「原諒我這一生不羈放縱愛自由、也會怕有一天會跌倒、背棄了理想誰人都可以、那會怕有一天只你共我（私がこの人生で好き勝手に自由を愛したことを許してくれ、ある日つまづくことも恐れた、理想に背くことは誰にもできるが、あなたと私だけになることも恐れない）」——このサビの部分の歌詞は、自由を追い求めるという内容がデモの中の学生たちに響くのであろう、何度となく特に大きな声で歌われてきた。往年の超人気グループの名曲だけに、新しい曲よりも多くの人が声を合わせることができる。

同時に私は、生まれる前の歌を唱う学生たちの姿に、返還直前のバブルの時代に香港の理想像を求めようとするノスタルジーの心理が働いていることを感じる。Beyondが活躍した頃、香港の映画や音楽などの文化は世界に大きな影響を与え、日本でも注目されていた（Beyondのボーカル・黃家駒は、日本でのテレビ番組出演の際に事故死した）。この年、香港のGDPは中国の27%に達していた。今は3%である（世銀）。様々な意味での香港の古き良き時代を、その時代を知らない若者が「懐かしむ」現象は、日本で「三丁目の夕日」が流行したのと似ているかもしれない。

◆「無怨的信念」：警官へのエール

一方の親政府派側も、「テーマソング」を作り出した。警察官へのエールである「無怨的信念（恨みのない信念）」である。デモ隊との衝突や、催涙弾への非難によって、警察官は心身ともに疲弊しているが、恨み言も言わずに本分を全うしているとの応援歌になっている。世界的ヒット曲 You Raise Me Upに、現職の警察官が広東語の歌詞を付したものである。

「遊行叛變的衝擊只當考驗、常屈辱你兼且將歪理編、難避免都只因我站前線、這信念警方終究未變（デモや反乱の攻撃は単なる試練と考える、いつも侮辱され屁理屈をぶつけられるが、それも前線に立つ以上避けられない、この信念を警察は決して変えない）」という歌詞に感動した親政府派の張宇人立法會議員が、調子外れを憚らず、3分にわたって議場で歌い続けて話題になった。警察の4時の会見に必ず現れる「許sir」こと許鎮徳警察官が、会見でこの詞を詠んだこともあった。

公開されているビデオのチープな映像効果や音質は、残念ながら民主派の側に遙かに及ばないと言わざるを得ない。親政府派の側に、若者に訴えるような文化の力が足りないことは一目瞭然である。民主化問題では、経済力・軍事力で香港を圧倒する北京は、力で香港を黙らせようとした。しかし、こういった「文化力」などの面において、共産党政権は弱点を露呈した。それ故に香港の人々の「心の祖国復帰」を、返還から17年経っても一向に実現できないのである。

「第15回香港フォーラム」 & 「全国協会交流会」 開催報告

日本香港協会全国連合会 事務局

香港フォーラムにて、日本香港協会が6年連続 “ベスト・アテンダンス・アワード” を受賞!



フェアウェル・ディナーにてベスト・アテンダンス・アワードの表彰を受ける日本香港協会

去る12月2日・3日、香港ビジネス協会世界連盟 (Federation of Hong Kong Business Association Worldwide / 本部 = 香港貿易発展局内) の世界大会「香港フォーラム」が開催されました。第15回目の開催となった今年は、全世界から400名以上の会員が参加し、大盛況のうちに幕を閉じました。

今年のフォーラムも、日本全国の参加者が世界全体の総参加者数の29%以上を占める、総勢119名を数え、国別での参加者数が世界一となり、6年連続で“ベスト・アテンダンス・アワード”を受賞しました。

また、各協会の活動に対する受賞式では、世界各地からの多数の応募の中から、九州日本香港協会が年間を通して行ったイベント・プロジェクトなどすべての活動・内容・成果を評価される「グランド・アチーブメント・アワード」を見事受賞しました。年間の活動及び香港協会のネットワークを通し、もっともビジネスを展開させ



「グランド・アチーブメント・アワード」を受賞する九州日本香港協会



「サクセス・ストーリー・アワード」を受賞する株式会社一蘭・代表取締役社長の吉富学氏

た会員・法人会員が表彰される「サクセス・ストーリー・アワード」には、株式会社一蘭・代表取締役社長の吉富学氏 (九州日本香港協会会員) が見事選出されました。さらには会員数10%増加により、「パーセンテージ・インクリーズ・アチーバー」として表彰され、1協会が3つの賞を受賞するという快挙を成し遂げました。

12月2日・3日の2日間の会期中にはビジネスセミナー、パネルディスカッション、ワークショップ、ネットワーキングセッション、視察ツアー等数多くのイベントが催されました。1日目の昼食講演会には、New World DevelopmentやRichemont Asia Pacific LimitedなどのCEOが登壇され、2日目の昼食講演会では、香港特別行政区政府法務長官Rimsky Yuen氏が登壇されたほか、オフショア人民元ビジネスへのグローバルハブと題して、バンク・オブ・チャイナからJason Yeung氏が講演をされたほか、海外から香港で事業を成功させた起



「パーセンテージ・インクリーズ・アチーバー」として表彰される九州日本香港協会

業家の数々の貴重な講演に、参加者全員が聞き入りました。また視察ツアーでは、香港政府管轄下の不正を取り締まるための機関である廉政公署 (ICAC) 訪問、歴史的建造物である警察官宿舎を改築して建てられた香港クリエイティブアイコンPMQ訪問などがありました。



香港貿易発展局マーガレット・フォン総裁と各地日本香港協会の代表

最終日のフェアウェル・ディナーでは、北海道日本香港協会からダンディーフォーの皆様が、歌のパフォーマンスを披露され、全世界の参加者から大絶賛を浴びたほか、世界中のメンバーが名刺交換をするなど国際的な交流が見られ、メンバー一同楽しいひと時を過ごしました。



フェアウェル・ディナーでのダンディーフォー (北海道日本香港協会) のパフォーマンス

日本香港協会全国の9協会が全て香港に集まりました

香港フォーラムの前日、12月1日には、グランドホール (名爵) にて第7回全国協会交流会が開催されました。交流会に先立って日本香港協会全国連合会総会が古田茂美事務局長の挨拶とともに開催されました。古田氏の挨拶につづいて全国連合会木全千裕会長が議長として選出され、新たに選出された戒田真幸監事からの監査報告をはじめとし、第三回総会として今年一年の活動を振り返るとともに、来年の新たな事業計画が討議されました。

全国交流会では本年の幹事協会である新潟日本香港協会の進行のもと、事務局長田中湖雄氏の司会により、全

国連合会会長木全千裕氏の開会挨拶、在香港日本総領事館総領事野田仁大使、日本貿易振興機構 (香港) 所長小野村拓志氏ならびに香港・日本経済委員会委員長ジョナサン・チョイ氏の来賓挨拶、香港貿易発展局副総裁レイモンド・イップ氏の乾杯の挨拶がありました。全国交流会は、各地の協会の会員の皆様が一堂に会し、年に一度香港で交流ができる機会ということもあり、今年も120名以上の方に参加頂き大盛況の会となりました。今年ご参加いただけなかった方は、是非来年ご出席いただき、メンバーとの交流を深めていただければと思います。



日本香港協会全国の9協会がすべて香港に集まりました

京都や軽井沢も人気の撮影スポット!!～香港の最新ブライダルフォト事情～

日本香港協会会員 柴田 誠

香港を何度も訪れたことのある皆さんなら、街のあちこちで、ウェディングドレス姿で撮影をしているカップルを見かけたことがあるでしょう。トラムの沿線やスタンレーにあるコロニアル風の洋館マレーハウス周辺、プロムナードといった場所は、特に人気の高い撮影スポットで、ウェディングフォトを撮影するカップルの姿は、香港の風物詩のひとつと言えるのかもしれません。そんな香港のブライダルフォト事情をご紹介します。

アジア中華圏の結婚式はとにかく豪華で派手。香港ももちろん例外ではありません。香港ではドレスやメイク、披露宴のレストランはもちろんのこと、ブライダルフォトや送迎のクルマ、ブライダルエステなどなど、すべてを自分たちで手配するのが一般的。ホテルですべての用意が整えられる日本とは、大きく違います。

かつては、自分や両親の出身地の婚礼スタイルにこだわって、中国スタイルの婚礼衣装で式を挙げる人も多かったようですが、最近は、自分たちのライフスタイルや生活レベルに合わせた、カジュアルな結婚式を考える人も多くなりました。そんな中でブライダルフォトというのは、絶対に外せないもののひとつ。ブライダルフォトを撮らないなんて考えられないんだそうです。

さまざまな事情で日本と同様、晩婚化が進んでいる香港。お金にも余裕があるのでしょうか、香港の新婚さんは、ブライダルフォトにもしっかりとお金と時間をかけているようです。中には新聞に「私たち結婚しました」という広告をちゃっかり出しちゃったりする新婚さんもありますが、思い出に残る結婚式を挙げたい、たくさんの人に祝ってもらいたいというのは、国を問わずどこも同じ。自分たちで一から作るものだからこそ、その思い入れも一層強いものになるのかもしれない。

プリンスエドワードの金都商場 (GOLDEN PLAZA) に行くと、ブライダル関連のあらゆるものが揃っています。上層階にはブライダルフォトの受付窓口がいくつも並び、さまざまな撮影プランが紹介されています。

ブライダルフォトは、日本と同様に前撮りが基本。ただし、見つめ合ったり微笑み合ったりキスしたりと、求められる写真は日本と大きく違います。パンフレットやサイトには、見る方が恥ずかしくなってしまうような、まるでムービースターのような仕上がりの写真ばかり。豪華な衣装に身を包み、シーンにこだわって撮るのが最近の傾向のようですが、ちょっとしたコスプレ気分を味わっているのかもしれない。



多彩な撮影プランを紹介するブライダルフォトのパンフレット

そんなゴージャスなブライダルフォトにとっては、ロケーションも重要な要素のひとつ。最近では、香港やマカオだけでなく、遠く海外にまで出掛けて行って撮るといったカップルも少なくないようです。実は、ヨーロ



婚展会でブライダルフォトアルバムを紹介する写真家

パや台湾、韓国、上海などと並んで、四季のある日本も人気の高いロケ地のひとつ。北海道、沖縄をはじめ、京都や軽井沢などで撮るプランがいくつも紹介されています。

人気の秘密は、旅行気分であげられる距離と金額が魅力的な点だとか。さらに、リクエストをすれば、日本の婚礼衣装で撮影できるなど、日本が大好きな香港人にとっては、魅力的な要素も多いようです。また、香港からカメラマンとヘアメイクが同行してくれるので、カップルは言葉の心配をすることなく、二人だけの世界をつくって撮影に集中できるんだとか。ちなみに料金は、カット数やムービー撮影の有無、アルバムの冊数などによって違いはあるものの、HK\$20,000前後が相場のようにです (2014年6月現在の参考価格)。

香港では年に数回、結婚を控えたカップルたちのためのブライダルの展示会 (婚展会) が毎年開催されています。留学フェアなどと同様のローカル向けの小規模な展示会で、入場無料ですから、興味のある方は覗いてみるというでしょう。開催時期になると、地下鉄構内などに婚展会の広告が貼り出されます。

婚展会には、ホテルやレストラン、ウェディングドレスや宝飾品のメーカーなど、ブライダルに関連した様々な企業が出展していますが、中でも人気が高いのは、やはりブライダルフォト。どこのブースも打ち合わせをするカップルで常に満員状態です。

香港返還から17年が経ち、そろそろ返還の前後に生まれた新世代の若者たちが婚礼期を迎えるようになります。海外へ留学して、就職のために香港に戻ってくるといった若者も少なくないそうです。そんな彼らはどんな写真を撮ってどんな結婚式を挙げるのでしょうか。常に変化を続けている香港の街と同様に、ブライダルフォトにも新たなムーブメントが生まれるのかもしれない。

柴田誠/フォトジャーナリスト、NPO法人「日本の写真文化を海外へプロジェクト」代表。「PICEX2」(2015年1/30～2/1 香港会議展覧中心) で香港人写真家と競作展を行う。

TOKYO

NPO法人日本香港協会



NPO日本香港協会【女子プロジェクト】パウヒニア会

パウヒニア会 第9弾～12弾イベントレポート

女性会員間に、公私ともに効く関係を作っていくことを目指した【女子プロジェクト】パウヒニア会は、本格始動から二年目を迎えました。今年前半は、3月に香港経済貿易代表部サリー・ウォン首席代表をゲストスピーカーにお招きしたビジネスセミナーを軸に、付帯イベントも行いました。後半は、香港の重要産業である飲食文化と観光にスポットをあてながら交流を図ってきました。今回は、後半の活動をご紹介します。



少人数でゆっくり楽しみながらお茶について学びます

◆第9弾「香港気分バーベキュー in 辰巳の森海浜公園」

開催日：2014年7月5日(土)

場所：辰巳の森海浜公園 (江東区/辰巳)

小雨が降ったりやんだりの中、たっぷりの食材といろいろな調味料のBBQを楽しみました。香港のハチミツ、咸鱼醬、台湾のBBQ醬、日本の焼き肉のタレなど。炭火で焼く肉、野菜はどれもおいしく、中でも手羽先やソーセージにハチミツを塗って焼く香港風が超美味！ぱりとした焼き目に香ばしい香りとはんりのハチミツの甘さが……。咸鱼醬は野菜スティックにつけて食べれば、香港気分が盛り上がり、ビールも更に進みます。途中、大きなマッシュマロを串に刺して焼くと中がとろ～りとろけるぜいたくなスイーツに。シメは、豚肉と野菜たっぷりの焼きそばで。お友達同士や家族、パウヒニアのイベントで知りあった仲間など、香港好きが集まったアットホームなBBQ大会でした。



食欲をそそる、甘くて香ばしいおかりが…

◆第10弾「中国緑茶の最高峰を愉しむ会」

◆第12弾「鐵観音茶の味と香りに癒されて」

開催日：2014年8月23日(土)、11月18日(水)

場所：i-cafe (新宿区/曙橋)

第10弾は、龍井茶と碧螺春茶を手作りのお茶菓子とともに試飲・実習を行い、第12弾は、2種類の鐵観音茶をi-cafe こだわりのお食事とともに賞味しました。講師は当協会理事の太田良子さん。

食事やおしゃべりを楽しみながらの、自由な香港茶道スタイルの体験は、新たな発見でした。五感をフルに使って茶葉の違いを感じ、さらにお湯の温度や入れ方によるお茶の味の変化を楽しみました。高級な緑茶のまろやかさには皆さん感激していました。鐵観音茶は発酵度・焙煎の度合いにより、味と香りのバリエーションが

豊富なことも驚きの一つでした。

茶器の種類や扱い方、お茶の入れ方の手順やコツ、上品な飲み方、香港人に人気のお茶屋さん情報などなど、中国茶がとて身近になりました。参加者からのリクエストも多く、次回のお茶会が楽しみです。

◆第11弾「香港街歩きの達人&観光局のプロが教える、新・香港の楽しみ方」トークイベント

開催日：2014年10月29日(水)

場所：i-cafe (新宿区/曙橋)

“香港のことならこの人に聞こう！”と評判のお二人、香港政府観光局の山本恵美氏と、一步踏み込んだ香港観光ガイドを執筆されている小柳淳氏 (NPO日本香港協会理事) のお二人に、ガイドブックにはまだ載っていない新・見どころや、香港通の参加者をもうならせる穴場のスポットを教えていただくトークイベントが開催されました。

オープニングは、香港観光親善大使EXILEのプロモーションビデオでスタート。山本氏からは、話題のショッピングスポットや、まさに今秋始まったばかりの旅行者も必見のイベント情報、女子が大好きな開運スポット情報など、体験談と画像をまじえてお話しいただきました。

後半は、香港通の方には嬉しい路線バス・ミニバス利用のコツなどを街歩きの達人・小柳氏に教えていただきました。

両氏によるお楽しみクイズのコーナーでは、マニアックな設問にも、香港通の皆さんからの大正解や珍回答に会場がわき、懇親会では約40名の参加者の皆さんとオーガニックの軽食をいただきながら、おしゃべりのつきない楽しいひと時を過ごしました。

短時間ながらも、香港の魅力がギュッと凝縮されたトークイベントとなりました。



満席の聴衆に新しい香港の魅力を語る山本氏

KANSAI

関西日本香港協会



関西日本香港協会 事務局

香港・中国ビジネスセミナー開催 新しいアジア・中国市場の展望、拠点としての香港

去る9月24日に香港貿易発展局、大阪商工会議所との共催で香港・中国ビジネスセミナーを開催し、47名が参加しました。

年率10%以上の経済成長を遂げていた中国が、リーマンショック以降7%台の経済成長率に低迷し、2012年以降は日中の政治的緊張が高まって中国ビジネスを志向する日本企業にとって難しい局面を迎えています。他方、新しい潮流として華人ネットワークが大きな力を発揮しているアジアの新興国が安定した経済成長を遂げており、「World City」と言われるようになったアジアのビジネス拠点、香港の重要性が増しております。このような状況下、今回はグローバルマーケティングと流通システムのダイナミズムを研究活動の軸として国際的にも活躍しておられる神戸大学大学院経営学研究科教授黄磷(コウ・リン)氏と香港事情に精通しておられる香港貿易発展局大阪事務所長伊東正裕氏に講演をお願いしました。

◆講演1:「アジア・中国での市場開拓と日中関係再構築の可能性」黄磷氏

黄先生は、豊富な統計資料に基づき、中国の都市化の進展(1978/193都市→2007/655都市)、急速な消費人口の拡大と所得水準の上昇、現金保有比率が高く消費意欲旺盛な中国消費者の特徴、中国の小売市場がグローバル競争のアーリーナ化している状況などについて詳しく説明されました。欧米系企業が標準化戦略で店舗を中国各地で急拡大しているのに対し、日本のスーパーは現地適応型で店舗展開が遅く、店舗数と売上高で欧米系外資に大差をつけられているので、小売がしっかり頑張らないとメーカーが苦勞することになるとの見解を述べられました。

次に、中国市場の基本的な特徴として、気候や地形の自然環境、文化、地方分権制度、経済発展の地域格差などの多様性について解説され、特に地域によってライフスタイルや労働条件が違うので地方行政との関係が重要で、アジア・中国市場の開拓には現地市場の「常識」と現地「経験」が重要であること、また、中国の現地市場で価格競争が泥沼化しているため、中国価格が世界にデフレを輸出することになるとの懸念を述べられました。



黄磷氏

2012年の日中関係悪化により対中貿易が大きく縮小し2013年には対中貿易が赤字化した、日本の対外貿易シェア第1位(2011/中国-20.6%、米国-10.6%)であり、問題山積ながら成長を続けている中国の「成長」と「安全保障」のどちらを優先するかで日本の将来に大きな影響を及ぼすことになるとの意見を述べられました。また、アジアについては日本のアジアへの相互依存性(2013/輸出シェア:54.3%、輸入シェア:44.3%)が増大しており、関西地域の活性化の視点からは、関西の中小企業の戦略はアジア・中国での販路開拓、現地市場でのブランドづくり、売れる製品の開発により、関西地域のこれ以上の産業基盤沈下と産業空洞化を阻止することが大事であるとの意見を述べられました。最後に、日本企業が新興国市場で成功するためには、価格競争に巻き込まれず、戦略目標を明確にし、スピードと柔軟性を持って、現地資源を活用し、地域多様性と現地常識を理解する現場主義が大事であると主張され、情報は生きた現場にあるので情報共有と知識創造による「人和」(知恵)がグローバル競争力の源泉でなければならないとの意見を述べられました。

◆講演2:「アジアのビジネス拠点、香港」伊東正裕氏

伊東氏は、アジアのビジネスセンターである香港に関し、2012年にGDPが1.4%に落ち込んだものの2013年には年間来訪者数が5,430万人(うち中国本土からの来訪者数:4,070万人)に達し小売売上高が11.6%増えたことによりGDPが3%に回復している状況と、香港の貿易が対米・対日取引がほぼ横這いで伸び悩む中、対中取引が2012年度で7.4%増加して香港経済を支えていると解説されました。また、香港が低税率でビジネスインフラが整備されて強い国際競争力を持っており、個人富裕層人口が多いので消費市場としての魅力も大きい点や、香港人の日本に対する好感度が高いので一緒に仕事し易い点を指摘。アジアのビジネスセンターとして地理的優位性を有し、ビジネスチャンスの多い香港を詳しいデータに基づき説明されました。また、中国の珠江デルタ地区発展・改革計画や港珠澳大橋(全長356km)の進捗状況なども説明され、ASEANと中国を繋ぐビジネスの中継地としての香港の役割が今後ますます増える見込みであると説明されました。香港が面白いとの印象を強くした講演でした。



伊東正裕氏

CHUKYO

中京日本香港協会



中京日本香港協会理事 川部 肇

歴史と文化の館「揚輝荘」ご紹介

私は「NPO法人揚輝荘の会」の理事もしております。今年「中京日本香港協会」の秋の懇親会がこの「揚輝荘」で11月23日(日)“紅葉を楽しむ会”というイベントの日に開催されました。この「揚輝荘」について概略を紹介させていただきます。

明治時代の終わり頃(約100年前)、松坂屋デパートを創業し近代名古屋の生んだ偉人と云われている伊藤次郎左衛門祐民(すけたみ)(明治11(1878)年~昭和15(1940)年)が、大正中頃から昭和初期にかけて名古屋市東部の高台に位置する覚王山の日泰寺東隣に約1万坪(35,000㎡)の丘陵地帯を切り開き別荘庭園を造り、これを「揚輝荘」と名付けました。日泰寺には日本で唯一、お釈迦様の真骨が祀られています。

この丘陵地帯は古く江戸時代より尾張(名古屋)地方の“お月見の名所”として有名でありました。古代中国の著名な詩人の一人、陶淵明の漢詩「四季をめぐる詩」で春夏秋冬の中の秋の項目に“秋月揚輝”とあります。即ち、秋はなんと云っても、お月様が揚がりきれいに輝いている様が一番だよと歌われた中から揚と輝という漢字をいただき「揚輝荘」と命名したものです。

この庭園「揚輝荘」には第二次世界大戦の始まる頃までに20数年かけて30数棟の建物・施設が造られました。それらは多くの近代建築物、移築された貴重な文化財、池泉回遊式と呼ばれる池や橋を含んだ庭園緑地、お茶室、野外劇場、テニスコート、遊戯運動施設、等々でした。これが造られた目的としては、各界の要人、文化人等を此処に招待し各種会合をしていただく為の迎賓館、社交場でありました。

しかし運悪く終戦間際に「揚輝荘」は激しい空爆に



「揚輝荘」南庭園にある山荘風外観の迎賓館「聴松閣」

遭い、その多くが破壊され、また終戦となった昭和20(1945)年/1945年にはアメリカ進駐軍(GHQ)による接収ということになり、7年間の長期にわたり彼らの使用に供されました。その後、一時期、松坂屋関係の社員寮とか伊藤家ご家族が住んだことがありましたが残された建物、施設も老朽化で自然崩壊にも遭い、順次、整理調整、世の移ろいを経て平成19(2007)年に残された建物・施設を含んだ北庭園2千坪と南庭園1千坪の合計約3千坪が名古屋市へ寄贈されました。

名古屋市は早速、翌年の平成20(2008)年に南北西庭園に残されていた5建物・施設を市の有形文化財に指定し、現在は私たちのNPO法人が維持管理、活用に当たっております。NPOは建物・庭園のガイドやイベント展示などの活用を行っていますが、ホームページやマスコミなどによる情報発信により少しずつ全国的にも知られる観光スポットになってきております。

日本香港協会 全国連合会

〒102-0083 東京都千代田区麹町3-4 トラストイ麹町ビル6階
香港貿易発展局 東京事務所内
電話 (03) 5210-5901 FAX (03) 5210-5860

NPO法人日本香港協会(東京)

〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラストイ麹町ビル6階
香港貿易発展局内 電話 (03) 5210-5870

関西日本香港協会

〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易発展局内 電話 (06) 4705-7030

中京日本香港協会

〒460-0003 名古屋市中区錦2-11-27 TH錦ビル8階
株式会社喜齋内 電話 (050) 3620-2517

九州日本香港協会

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2丁目9-28 会議所ビル1階
地域企業連合会 九州連携機構内 電話 (092) 451-8610

山形日本香港協会

〒990-2432 山形市荒瀬町1-14-21
(株)日本不動産コンサルティング内 電話 (023) 633-2110

北海道日本香港協会

〒060-8661 札幌市中央区大通西3-11
北洋銀行国際部内 電話 (011) 261-4288

宮城日本香港協会

〒980-0811 仙台市青葉区一番町3-7-23 明治安田生命仙台一番町ビル3階
(株)JTB東北 交流文化事業部内 電話 (022) 212-5552

沖縄日本香港協会

〒900-0033 那覇市久米2-2-10
那覇商工会議所内 電話 (098) 868-3758

広島日本香港協会

〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ3階
(公財)ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター内
電話 (082) 248-1400

新潟日本香港協会

〒951-8052 新潟市中央区下大川前通四ノ町2186番地
愛宕商事株式会社内 電話 (025) 365-0001

URL <http://www.jhks.gr.jp>

KYUSHU

九州日本香港協会



九州日本香港協会 事務局

講演会・会員交流会開催



会長挨拶 石原進氏



講師 王効平氏

九州日本香港協会では10月16日(木)に福岡市内の和食レストラン・赤坂うま博多にて講演会・会員交流会を開催しました。九州日本香港協会発足後、このような会員同士が膝をつきあわせての交流会は去年に引き続き2回目の開催で、23名の会員が参加しました。

講演会に先立ち、当会の会長である九州旅客鉄道株式会社相談役石原進氏が挨拶されました。講演では北九州市立大学大学院マネジメント研究科長・教授王効平氏より「香港は自らの国際競争力を維持できるか」と題して「香港の返還前のガラパゴスの競争優位は地政学的優位、制度的優位、歴史的存在意義、人材の集積などであった。また、総合的な競争優位として国際貿易物流センター、国際金融センター、タックス・ヘイブンなどで代表する自由港機能があった。しかし、今香港は東アジア域内、後背地中国との競争、内部問題を抱えている。先ず、東アジア域内では、シンガポールの追上げ(ユニークな国家戦略、華人ネットワークの活用、中国系上場企業の誘致)に始まり、租税負担軽減を巡る国家間競争、国際金融センター乱立などのリスクがある。後背地中国からは中国自身の変化、持続的経済成長の維持策としての経済自由化の大きな流れの要因による特区政策の見直し、外資誘致を巡る中国各地方の熾烈な争い、物流条件整備・機能強化の影響、大陸系人材の流出入の変化が行われている。最後に香港内部では民主党派の要求、所得格差、古くからの香港人と新たな大陸出身者の関係、財閥経済



講演会の様子

の動きなどのリスクの存在がある。香港は依然として競争力のある地域であるが、競争力を脅かすリスクも大きくなっているのではないかと思う」とお話いただきました。当会の株式会社タカミヤ代表取締役社長高宮俊氏「過去・現在・未来の香港の競争力や魅力を再び感じさせる機会が得られ、とても有意義な時間となった」と感謝の言葉を伝えられました。

講演に引き続き交流会が行われ、当会の副会長である株式会社エフエム福岡代表取締役社長佐々木克氏が「このような会を通して、会員間のより深い絆を築いてほしい、また12月の香港フォーラムに九州から多くの会員が参加してほしい」と挨拶されました。その後、当会の名誉顧問である西研グラフィックス株式会社代表取締役社長並田正一氏より乾杯のご発声いただきました。

歓談の際には香港と九州の歴史的な関わりや現在の香港事情について語り合い、会の雰囲気はとても盛り上がりました。閉会の挨拶として、今年当会の副会長に就任した山九株式会社福岡支店長三輪浩氏により「再び香港フォーラムへの参加のお願いと今後もこのような会員間の情報交換や交流の場を頻繁に行っていききたい」とお話いただきました。

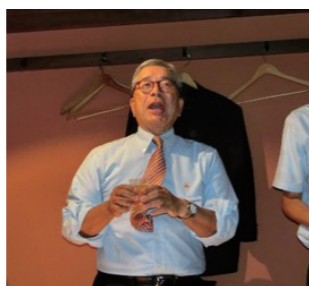
九州日本香港協会では会員の要望にこたえて今後も多様な形態の会員交流会や情報交換会の開催等を通じて、より親密な会になるよう努力していききたいと存じます。どうぞよろしく申し上げます。



高宮俊氏



副会長 佐々木克氏



名誉顧問 並田正一氏



副会長 三輪浩氏

HOKKAIDO

北海道日本香港協会



北海道日本香港協会 事務局

札幌市による香港への外食産業の展開と連携強化の推進

今回は札幌市の香港での取り組みをご紹介します。

札幌市では市内企業の戦略的な海外需要の取り込みに向け、2014(平成26)年4月に、経済局内に新たに国際経済戦略室を創設し、18名の職員体制のもと、食関連産業とコンテンツ関連産業の海外展開の推進を図っています。

このうち食関連産業においては、海外への輸出を目的とした食品の開発を行う企業への補助金の交付や、海外見本市・展示会への出展に加え、今年度は新たに市内の事業所で最も数が多く、札幌の魅力度を海外に発信する潜在力が高い飲食店の海外への店舗展開を支援しています。

その特徴的な取り組みとして、本年8月14日~17日に香港で開催された食の見本市「香港フード・エキスポ2014(主催:香港貿易発展局)」のグルメゾーンに、飲食店等8社とともに、初めて出展しました。期間中は札幌市・旭川市の連携のもと「北海道グルメストリート」として、現地一般消費者に対するプロモーション活動や、出展企業と現地外食産業関係者との個別ビジネスマッチングを実施しました。

「北海道グルメストリート」では、札幌名物のラーメン、スープカレーのほか、和定食、スイーツ、海鮮丼等、多岐に渡って北海道の味覚を提供したところ、どのブースも大変多くの来場者があり、会場内は大混雑となりました。特に、香港・中国本土の方は、北海道の魚介類に大変関心が高く、海鮮丼を提供したブースでは1時間待ちの行列ができるほどとなりました。

各ブースには、北海学園大学の学生5名が飲食店3社に対する通訳支援として、来場者に商品説明等を行いました。これは同大学と札幌市による共同研究調査「中小企業の海外展開を担うグローバルビジネス人材の育成モデル構築」の一環であり、参加学生からは、「非常に多くの来客に対応しなくてはならないので、外国人とのコミュニケーションの機会を多く持つことができた」、「担

当している企業が客の反応を見て売り方を次々に工夫していく様子に驚き、海外ビジネスにおけるフレキシブルな対応の重要性を学んだ」などの意見が聞かれました。

併せて、香港貿易発展局等の仲介により、出展企業が海外に進出する際のパートナー候補企業等、外食産業関係者と、合計53件のビジネスマッチングを実施しました。現在、継続的に詳細条件の交渉を行っている企業も複数あり、将来の香港への進出が期待されます。

また、8月14日の「香港フード・エキスポ2014」開会式には、札幌市の上田文雄市長も出席し、香港貿易発展局フレッド・ラム総裁との間で、札幌市と同局における経済交流に関する覚書(MOU)を締結しました。

このMOUは、香港貿易発展局が有する強固な情報・ネットワークを生かし、札幌・香港間の貿易や相手地域への事業展開等の経済交流を一層促進することを目的としています。札幌市では、2010(平成22)年から、「香港フード・エキスポ」に北海道ブースを出展させているほか、映像を切り口とした観光客の誘致や道産品の輸出増加を目指し、2008(平成20)年から、同局が主催する「香港フィルマート」にも、北海道ブースを出展させています。

締結式の間では、フレッド・ラム総裁から、「MOU締結を契機として、経済関係だけでなく、文化交流など、幅広い分野での関係強化につなげたい。香港の経済人を帯同し、ぜひ北海道を訪問したい」と挨拶がありました。これを受け、上田市長から、「札幌・北海道の食品は世界に誇る生産量と品質を持っており、こうした食品を香港から、中国、ASEANへと広げていきたい。札幌市は、日本で唯一の映像特区に指定されており、コンテンツを活用した食の海外展開にも取り組んでいきたい」と挨拶を行い、食関連、コンテンツ関連産業の分野での情報共有やビジネス交流機会の促進や、双方の投資受入れの更なる促進の必要性が、両者で確認されました。

札幌市では、今回の「香港フード・エキスポ」への出展や香港貿易発展局とのMOU締結を契機に、引き続き、企業の更なる海外展開を後押ししていく考えです。



香港フード・エキスポ2014出展会場の様子



経済交流に関する覚書(MOU)締結

MIYAGI

宮城日本香港協会



宮城香港協会 事務局 武田 功

女性部会が二つの行事を開催

◆「西馬音内盆踊り」にて研修会

8月17日(日)～18日(月)に女性部会初の移動研修会を開催し、事務局も含め23名が参加しました。この盆踊りには、豊年踊りとして始まったという説と、落城した城主の慰霊の踊りが豊年の踊りと一緒になって伝えられたという説があります。にぎやかで勇ましく野性的なお囃子と、流麗で上方風の美しい踊りのコントラストが特徴です。踊りつぐ七百年の歴史のある秋田県羽後町「西馬音内盆踊り」に参加し、会員の親睦を図る一方で、東北の風土や伝統、そして独特な「西馬音内盆踊り」の特長について学びました。参加頂いた会員の皆様からは、「新しいお友達もでき、いろんな知識も習得できた良い機会でした」と、ご意見を頂きました。今回の研修会においては、お米と地酒、秋田美人はもちろん、3名の新入会もあり、実り多い楽しい研修会となりました。

◆第4回「ひびき合う心コンサート」を開催

10月18日(土)14:30から常盤木学園高等学校シュトラウスホールに於いて4回目となる東日本大震災復興チャリティコンサート「ひびき合う心コンサート」を開催しました。NPO法人「美・JAPON」及び「宮城国際ビジネス交流支援ネット」との共催で、ピアノ、ヴァイオリン、ギター、インディアンフルートの演奏に加え、歌、そして着物生地で作ったという洋服のファッションショーとしてのパフォーマンスもありました。小野寺初正会長の挨拶で始まり、1時間と短い時間ではありましたが、138名の方々にご参加いただき、音楽とファッションショーのコラボレーションを堪能いただきました。女性の参加者が多い中、本協会の活動の魅力に惹かれ、入会案内書を持ち帰る人もおり、女性部会の今後の活動の大きな支援に結びつくものとなりました。



「ひびき合う心コンサート」演奏風景

芋煮会を開催

10月19日(日)11時から松ぶちガーデンテラス(仙台市青葉区八幡)に於いて、当協会YOUYOUクラブ主催の芋煮会を開催しました。総勢45名の方々に参加いただき、好天秋晴れの中、おいしいお酒に芋煮、そして鉄板焼きを堪能、秋を満喫しました。前沢徹部会長及び小野寺初正会長の挨拶、英会話仙台国際学院の鎌田成子代表の乾杯でスタート、どんぶりにあふれんばかりに盛られた芋煮、熱い芋煮をフーフーいいながら食べるおいしさ、この時ばかりは会社の仕事も忘れ、秋の味覚に酔いしていました。参加者からは「また来年も来られるよう企画してね」などと、応援のメッセージもいただきました。

香港総合食品見本市 (FOOD EXPO 2014) に「宮城県ブース」を出展

8月14日(木)～16日(土)開催の「FOOD EXPO 2014」に出展しました。宮城県としては2回目となるもので、「食材王国みやぎ」の代表品目である「米」「水産加工品」等のおいしさを香港の人たちにPRしました。



「ひびき合う心コンサート」出演者との記念の1枚



皆さん楽しそうです (芋煮会)

OKINAWA

沖縄日本香港協会



沖縄日本香港協会 事務局

沖縄県・香港貿易発展局 MOU締結

8月14日(木)沖縄日本香港協会会長國場幸一氏ほか、沖縄県経済団体の代表の臨席のもと、沖縄県知事仲井眞弘多氏と香港貿易発展局総裁フレッド・ラム氏との間で、MOU(業務協力覚書)が交わされました。

沖縄県は、MOUの締結により、沖縄県の企業の香港への進出、沖縄県産品の香港への販路拡大を目指すと共に、香港貿易発展局と沖縄県や企業関係者との情報の交換を行っていきます。

具体的には、沖縄県と香港の双方が、市場の将来性について深く理解するために、お互いに最新マーケット情報を定期的に提供することや、香港と沖縄県とのビジネス関係を促進するため、それぞれの地元の企業に対し、沖縄県・香港貿易発展局が主催する見本市、高官級協議、ビジネスマッチングを目的とした商談会等への参加を促すことが掲げられています。

現在、沖縄県では、那覇空港の24時間運用を利用して、ANAによる国際航空物流ハブ事業を行っており、特に香港は沖縄県からの輸出、特に沖縄県産の食料品の最大の輸出先になっています。今後、この国際航空物流ハブにより香港に向けて付加価値の高い商品・サービスが提供されることが期待されています。

香港貿易発展局総裁フレッド・ラム氏は、「香港のビジネス展開は、自由度が高く市場も大変大きいです。香港貿易発展局では、年間を通じての国際展示会や企業情報によるマッチング事業等、様々なサービスを展開しています。沖縄の企業の皆様にも大いに活用・利用して頂きたい」と挨拶しました。

また沖縄県と香港貿易発展局のMOU締結に際し、沖縄日本香港協会会長國場幸一氏を団長として、経済



沖縄県・香港貿易発展局MOU調印式

団体や企業の代表者による経済ミッション団結成、香港・マカオを訪問しました。

一行は、まず香港フード・エキスポを視察、沖縄県の企業のブースや、ジェットロの支援を受けている企業のブースを見学、参加者からは、「大きな香港コンベンションセンターの会場で、多くの参加者に驚いた。香港のマーケットの大きさ・可能性を感じることができた」との声がありました。

翌日はジェットロ香港事務所を訪問、所長の小野村拓志氏より香港・マカオの経済概況の説明を受け、香港・マカオの経済の理解を深めました。

今回、沖縄県が香港貿易発展局とMOUを締結することにより、更に香港と沖縄の企業の情報・マッチングが容易になり、更なる沖縄企業の香港への進出や、商品・サービスのアジアにおける展開が期待されます。



フードエキスポ視察



ジェットロ香港事務所訪問

HIROSHIMA

広島日本香港協会



広島日本香港協会事務局長 松岡 弘道

初めての海外取引セミナー&相談会in呉

広島日本香港協会の事務局は公益財団法人ひろしま産業振興機構・国際ビジネス支援センターが担い、広島市に所在しています。香港協会の事業に限りませんが、セミナー等の事業は主に広島市で開催しているのが現状です。このため、当協会会員の方をはじめ、県内の地域の方々も事業に参加しやすく、より多くの方々に香港の現況について見聞を広めていただけるように、一昨年度から広島県東部の福山市で「香港・アジアセミナー&相談会」を、広島県の中央に位置する東広島市で「海外取引セミナー&相談会in東広島」と広島市以外の地域でも開催してきました。

今年度は、県南部に位置する呉市での開催とし、当協会会員の呉商工会議所に共催を呼びかけたところ、快く承諾いただいて計画が動き出しました。

第1回目は10月16日(木)に、呉商工会議所において「初めての海外取引セミナー&相談会in呉」と題して開催しました。これから海外展開を考えている呉地域の中小企業を対象とし、テーマは、①海外取引に興味はありながら、何から手を付ければ良いのか分からない場合の初歩的なノウハウを伝授すること、②海外展開の事例紹介として、香港における日系企業の進出事例や最新の市場動向を紹介すること、と設定しました。専門家の講師から講演を行った後、個別相談会を実施しました。各々のテーマの講師は、①については、独立行政法人中小企業基盤整備機構の南勇プロジェクトマネージャーに、②については、香港貿易発展局大阪事務所の田中洋三社長にお願いしました。

まず、中小機構の南マネージャーからは、『海外取引入門セミナー～海外取引に興味はあるけど、どうしたらいいの～』と題して、海外販路開拓へのアプローチとしての商談会、WEBサイトを活用した海外取引、海外展示会への出展フローなどについて、事例紹介をふんだんに交えた熱の入った講演で、海外展開に対して背中を



田中次長の講演風景

押されるような内容が印象に残りました。

続いて、香港貿易発展局の田中次長からは、「香港における日系企業の進出事例」と題して、香港の経済基礎情報と香港の強み、香港の活用例など盛り沢山の内容を分かりやすく語っていただきました。

平日にもかかわらず多数の参加を得まして、参加企業の皆様は、セミナー、相談会ともに大変熱心に聴講し相談されていました。

11月21日(金)には、今年度2回目のセミナー&相談会を広島県中央部に位置する尾道市において、当協会会員の尾道商工会議所との共催で開催。今後についても、協会会員である各支援機関とも連携を図りながら、事業を実施して参りたいと考えております。

なお、香港貿易発展局大阪事務所の田中次長には、お忙しい中講師をお務めいただく一方で、セミナーの企画段階から様々なアドバイスをいただきました。今回のセミナーは、田中次長のご尽力なくしては実施できなかったものであり、紙面をお借りして厚くお礼を申し上げます。

第6回日本香港協会全国事務局長会議

平成26年8月29日(金)に香港貿易発展局(HKTD)東京事務所で開催された、「第6回日本香港協会全国事務局長会議」に、事務局長として初めて出席いたしました。当日は、全国連合会の古田茂美事務局長をはじめ、全国の事務局長の方々が参集され、各協会から今年度の事業報告を行ったほか、香港貿易発展局の職員の方々から担当産業についての紹介や説明を受けました。各協会の活動状況や香港に関する最新のビジネス情報に接する機会となりました。

また、総会開催後のアジア・ユース・オーケストラのコンサートでは、香港政府を含む多くの香港関係者の方々や接する機会を得られたこと、今後のアジアを背負う若者の素晴らしい演奏に触れられたことは大変有意義なものでした。



南マネージャーの講演風景

NIIGATA

新潟日本香港協会



新潟日本香港協会理事 齋藤 吉平

新潟県酒造組合が今年も新潟清酒試飲商談会を開催

新潟県酒造組合(会長・齋藤吉平)では、昨年に引き続き、9月26日(金)香港にて新潟清酒試飲商談会など一連の行事を27歳参加のもと開催致しました。会場は、カオローンのチムサーチョイにある、モダンなデザインのホテル「ザ・ミラ香港」です。組合としては、一昨年のシンガポール、昨年の香港インターナショナル・ワイン&スピリッツ・フェア2013に次ぐ第3回目の海外行事となりました。

今回の特徴は、1) 単独で試飲商談会を開催したこと、2) 日本酒ファンへの本格的な日本酒セミナー実施、3) 「ミニ酒の陣イン香港」で多くの一般消費者に新潟清酒を知っていただくこと、4) 「Niigata Sake Night」で12の香港日本料理店に2つの蔵元が伺い、新潟清酒を振る舞ったことです。

「試飲商談会」では63社100名からなる、インポーター・卸・レストラン・ホテル・居酒屋・小売店など広い分野からの来場があり、熱心な商談が進みました。酒の味・質・料理との相性・価格・条件など蔵元の熱心な説明にバイヤーらは耳を傾けていました。あるバイヤーは「日本一の米どころ新潟の米は大変おいしい。そこで醸し出される『新潟清酒』は大変高品質でプレミアム感があるばかりか、実に美味しい」と積極的な評価を得ることができました。

「日本酒セミナー」では、45名の受講者が「酒サムライ」のルイス・ホー氏の広東語による「日本酒全般にわたる講義」を熱心に受講。次いで登壇した新潟県醸造試験場の渡邊健一場長の新潟清酒の特徴の説明には大きく頷いたり、メモしたり、香港人だけでなく欧米人もいた会場は熱気に包まれていました。特別純米・純米大吟醸・大吟醸・超辛口・低アルコール純米酒5種類の利き酒を堪能しておられました。



NIIGATA SAKE FESTIVAL in 香港(ミニ酒の陣)

「ミニ酒の陣イン香港」では、VIPや地元プレスも交え294名もの方にご来場いただきました(昨年度実績239名)。ここでは、参加27蔵元の酒3種類2本ずつ162本、未参加の蔵61蔵から2本ずつ122本も併せ、284本が一堂に会し、流石の香港の日本酒ファンも「これほどの規模の酒のイベントは他にない」と驚くやら感心するやらでありました。また、ホテルから提供された本イベント用に調理された中華料理の味もよく量も潤沢で、来場者は新潟清酒とのコラボレーションを思う存分堪能しておられました。会場内は、実に陽気で愉快で楽しさ溢れる雰囲気であってました。また、折しも新潟県観光局のご担当者も、香港から本県へのインバウンド観光推進のためのご出張中でありましたが、事前の打ち合わせでホテル会場内にブースを設置し、本県の「酒蔵ツーリズム」への誘客に積極的にお声掛けをされていました。



会場内のディスプレイ

翌日夕刻の「Niigata Sake Night」はチャレンジングな試みでしたが、香港日本料理店協会の大変なご協力により、高級すし店・高級日本料理店、田舎料理店・居酒屋・稲庭うどん店などバラエティーに富んだお店に、各蔵元は分散してお伺いし、持参した自慢の酒を提供致しました。新潟のお酒を、一般消費者のより近くでご説明できる良い機会となりました。

最後に、今回の成功は、ジェトロ新潟およびジェトロ香港のスタッフの力によること大に感謝申し上げる次第です。今回の事業で「新潟清酒ブランドの浸透」が更に進み、今後の和食や和風文化の一層の浸透に貢献することができたとするなら我々の大変な喜びとするところです。大変ありがとうございました。



新潟県酒造組合の参加メンバーによる集合写真



香港は世界No.1の
キャセイで行かなきゃ、
もったいない。

2014年度 エアライン・オブ・ザ・イヤー受賞!

おかげさまでキャセイパシフィック航空は、このたび4度目のエアライン・オブ・ザ・イヤー[®]を受賞。
日本-香港間の圧倒的な便数と価格以上の充実のサービスで、5つ星エアライン^{*}の旅を。

日本から香港へ、週120便以上。[エコノミー] 往復39,000円^円 / [プレミアム・エコノミー] 往復74,000円^円~
いまならオリジナルポストカードセットをプレゼント^{※!} 詳細は「香港スタイル」ウェブサイトへ。

cathaypacific.co.jp

お問い合わせ

予約発券センター 0120-46-3838 (日本国内) 営業時間: 月~土 9:00-17:30 / 日・祝 休み



表示運賃は、2015年3月末までの間の東京(成田)発香港行き「エコ得3」および「プレミアム・エコ得3」の最安値です。価格は予告なく変更する場合があります。
燃油サーチャージ、その他各種税金など、諸経費が別途必要となります。画像は、長距離路線のプレミアム・エコノミークラスのイメージです。
^{*}英国スカイトラックス社より受賞および認定。[※]対象出発期間は、2014年10月1日~2015年3月31日(日本ご出発分)です。